

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の概要

伊達市教育委員会

「学習」に関する調査結果

調査日 令和6年4月18日(木)
 調査対象 小学校6年390名、中学校3年357名
 調査教科 小学校:国語、算数 中学校:国語、数学

【平均正答率（全国との比較）】

教科	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
全国平均との比較	下回っている	かなり下回っている	下回っている	かなり下回っている

全国平均正答率と比較して

かなり上回っている：+5ポイント以上 上回っている：+1～+5ポイント やや上回っている：+0.1～+1ポイント
 かなり下回っている：-5ポイント以上 下回っている：-1～-5ポイント やや下回っている：-0.1～-1ポイント
 同等：±0.1ポイント

【国語】

小学校	中学校
【育っている力】 「読むこと」 ◎人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる力	【育っている力】 「情報の扱い方に関する事項」 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解する力
【育てたい力】 「話すこと・聞くこと」 ▲目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にする力 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる力	【育てたい力】 「話すこと・聞くこと」 ▲資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように話すことができる力 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ▲文の成分の順序や照応について理解する力 ▲短歌の内容について描写を基に捉えることができる力

児童質問紙より

(学習に関すること)

本市の児童生徒は、
 ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」という児童生徒の割合がとても高いです。
 ・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりする」という児童生徒の割合も、全国比を上回っています。

学力向上のために大切にしたい学習

- ≪国語≫
- 漢字を使って文章を書くことの習慣化
 - 文法的事項の定着
 - 目的や意図に応じて伝えたい内容を的確に話す学習
 - 相手の意図をつかみながら話を聞く学習
- ≪算数・数学≫
- 基礎的な計算力、概念の理解の定着
 - 既習事項を活用して問題解決ができるように、式や表、グラフなどを用いてどのように考えたのかを説明し、検討する学習

【算数・数学】

小学校	中学校
【育っている力】 「図形」 ◎直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解する力 「データの活用」 ◎円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる力	【育っている力】 「数と式」 ◎問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法計算ができる力
【育てたい力】 「数と計算」 ▲除数が小数である場合の除法の計算ができる力(問題)	【育てたい力】 「数と式」 ▲連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる力(問題)
「変化と関係」 ▲速さの意味について理解する力	「データの活用」 ▲簡単な場合について確立を求めることができる力 ▲与えられたデータから最頻値を求めることができる力

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。
 家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。

家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

1 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表すとき、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表さない。

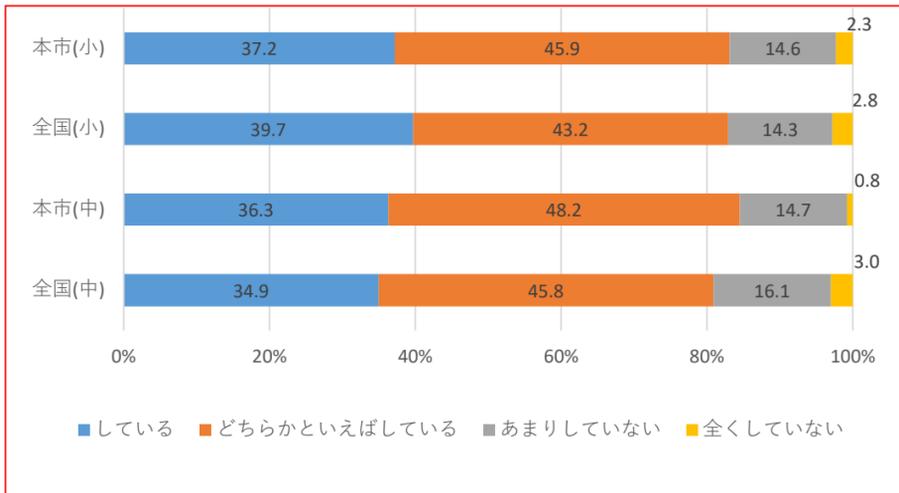


「生活・学習」に関する調査結果

調査日 令和6年4月12日(金)～4月25日(木)
 調査対象 小学校6年393名、中学校3年361名
 調査内容 小学校:児童質問紙 中学校:生徒質問紙
 ※小学校・中学校ともにオンラインで実施

【基本的生活習慣】

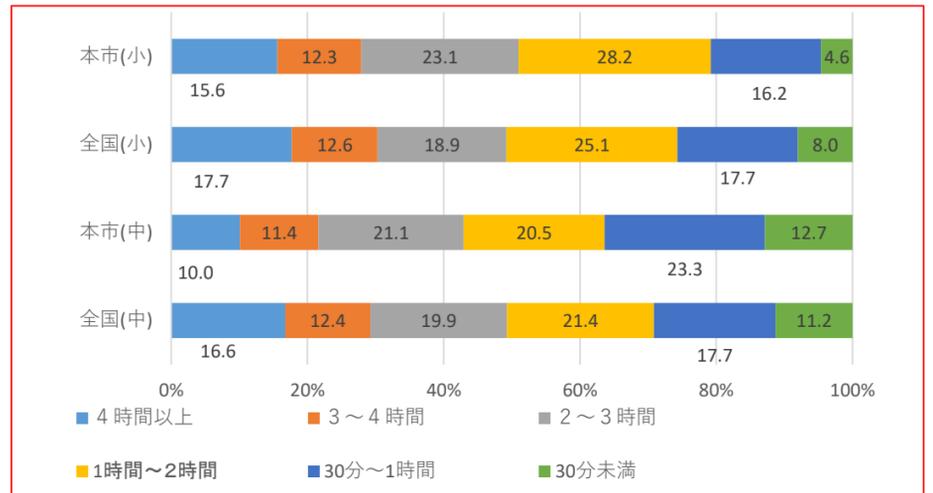
Q 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



「毎日同じくらいの時刻に寝る（起きる）」
 「朝食を毎日食べる」といった基本的生活習慣が身に付いている児童生徒の割合は市全体の8割を超えています。

学力向上のためには、睡眠時間の確保、健康な体を育てる食生活、規則正しい生活などの生活習慣を確立することが大切です。基本的生活習慣が身につけていると、集中力や持久力がつき、自分の力を十分に発揮できるようになります。

Q 普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか



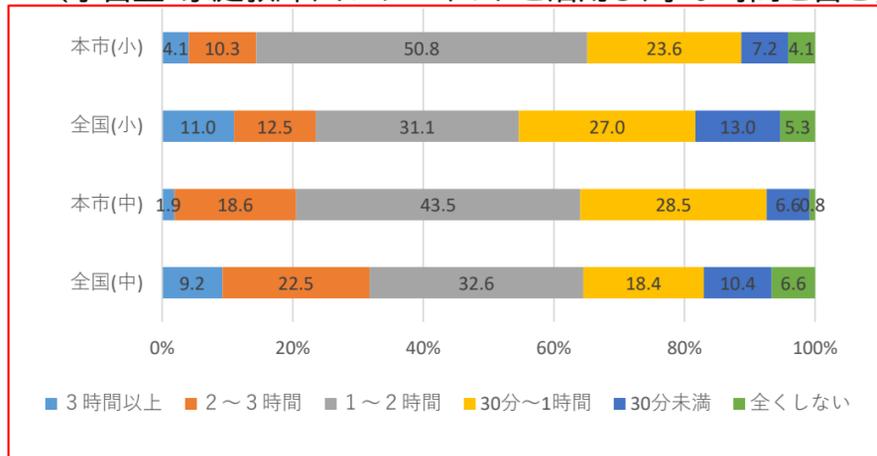
本市では、小学生は一日当たり2時間以上ゲームをしている児童の割合が学年全体の5割を、中学生は4割を超えていました。

国立教育政策研究所の調査では、ゲームの時間が長くなるにつれて、成績が低くなるということが分かっています。長時間のゲームは、脳の疲労と、集中力の低下を招きます。

ゲームやテレビ、SNS等の利用時間や使い方の約束についてお子さんと話し合い、ルールを決めるなど、親子でいっしょに生活習慣を見直すことが大切です。

【家庭学習への取り組み】

Q 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか
 (学習塾・家庭教師、インターネットを活用し、学ぶ時間を含む)



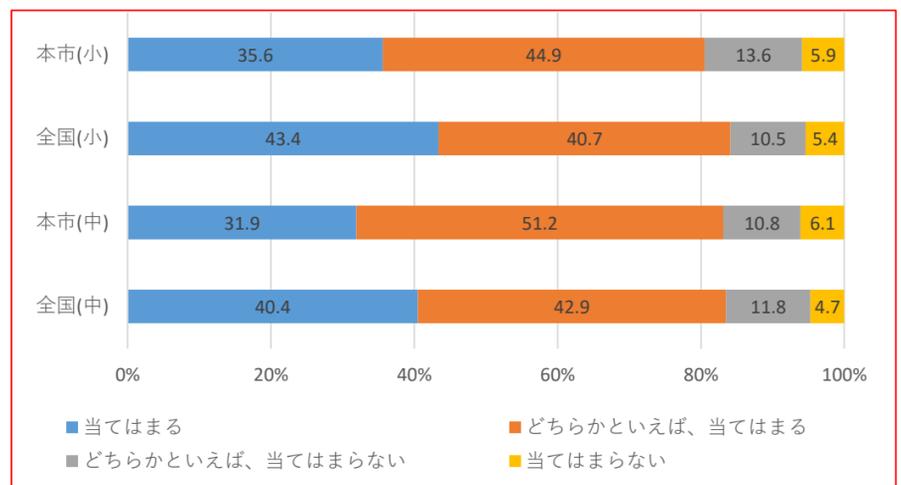
昨年度と同様に、今年度も平日の学習時間は小学生・中学生ともに全国平均より短い傾向にあることが分かりました。

今後も、「ふくしまの家庭学習スタンダード」等を活用しながら、児童生徒が自分の学習への取り組みを振り返り、自分に合った目標の設定や、家庭学習の内容を吟味し選択できる力（自己マネジメント力）の育成に取り組んでまいります。

ご家庭では、お子さんが学習に取り組みやすい環境づくりと、発達段階にふさわしい学習時間を確保できるよう、ご協力をお願いいたします。

【自己肯定感】

Q 自分にはよいところがあると思いますか



本市の児童生徒は、全国と比較して「自分にはよいところがある」と感じている（自己肯定感がある）児童生徒の割合が低い傾向にあります。自己肯定感の高さは、学習や運動に意欲的に取り組むことにつながります。

学校では、授業の中で一人一人の考えのよさを認め合う場を設定します。また、児童生徒の挑戦や頑張りを支援し、努力の過程を称賛する言葉かけや関わりを大切にしていまいります。

「よりよい生活習慣づくり」と「よさを認め、励ます言葉かけ」で、一人一人の力を伸ばしていきましょう!

